東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2005年10月7日

斎戒の効用

ムスリムの皆様。慈しみと許しの月のもたらす空気を、今日で三日間、味わってきました。アッラーに限りない感謝をささげます。今日のホトバでは、斎戒の効用をいくつか紹介したいと思います。

1 アッラーは、あらゆる苦痛に癒しを、あらゆる病に薬を与えられるように、悪に対して身を守るすべをも与えられました。斎戒の特質とは、私たちを守るイバーダであるということです。斎戒は一つの盾であり、人を悪から守ります。悪から守ることによって、地獄からも守るのです。

2 斎戒は、私たちの道徳をよいものとします。断食とは単純に「おなかをすかせること」ではありません。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は以下のように仰せられました。「誰であれ、嘘をつくこと、偽りを行なうことをやめなければ、アッラーは彼が飲み食いをやめることに価値を与えられない。」

3 ラマダーンの斎戒は、純粋な「感謝の鍵」です。なぜなら、それ以外の時には、多くの人は真の空腹を味わうことがなく、その恵みの価値を理解しきれないからです。その恵みをいかに必要としているかを、真に実感し、理解することがないのです。しかし、イフタールの時、真の空腹がもたらす食欲によって、乾いたパンですらどれほど貴重な恵みであるかを実感するのです。

4 人々は、くらしという点で、皆同一には創造されませんでした。貧しい人、豊かな人、中流階級など、いくつかの階層に分けられます。アッラーは、この違いにより、富裕層が貧困層に援助するよう呼びかけられておられるのです。豊かな人が貧しい人のために援助することは、彼らの現状、貧窮、空腹を真に理解すること、わずかでも体験すること、実感することによって、可能となります。これも、斎戒によって最良の形で実現するのです。

5 人の我欲は、自らの無力さ、弱さ、欠点、過ちを決して見ようとしません。無限の恵みによって糧を与えられ、生かされている、ということを考えようとしません。ラマダーンの斎戒は、皆に、我欲の本質を明らかにします。斎戒によって、我欲がいかに無力で弱いものであるかが明らかになるのです。我欲の本質を目にし、理解した人は、身勝手さ、我欲への過信、うぬぼれを捨て、しもべとしての義務を果たそうと努めるのです。

6 ラマダーンは、クルアーンの啓示が始まった聖なる月です。人々がアッラーに、より敬意を示すべきこの月に、斎戒が義務とされたことにおける神意の一つも、このことに違いありません。斎戒というイバーダは、クルアーンの精神と教えへの招き、その目標と意図、啓示における神意に、この上なく適しているものです。

7 人はこの世界へ、あの世のための取引を行なうべく、生まれてきました。ラマダーン月で斎戒を行なうことは、あの世への取引のための、いかに素晴らしい恵みであるか、皆さんで考えてみてください。

8 常に作動している機械は、定期的に手入れする必要があります。同様に、疲労した消化器官も、最低でも年に一度は休ませ、手入れする必要があるのです。これも、斎戒というイバーダが、最良の形で実行するのです。

9 斎戒は、体の、空腹や渇きに対する耐久力を増します。人に忍耐強さと抵抗力を獲得させます。

１０ 斎戒によって、我欲は服従し、命令を受けることに慣れます。神の命令にこうべを垂れ、ハラールであることすらも放棄するため、ハラームから遠ざかることにおいて、完全な経験と能力を獲得するのです。このようにして、肉体と同様、精神的な健康をも得ることができます。

１１ 何よりも、私たちは、アッラーの命令であるという理由で、斎戒を行ないます。ただ、その斎戒ですら、アッラーがしもべに対していかに慈悲深くあられるかを示すものとなるのです。なぜなら、人々が耐えられないようなイバーダは命じられていないからです。例えば、斎戒を、夜明けから次の夜明けまで行なうよう命じられていたとしたら、つまり２４時間のうちたったの一度だけ食事することができるとしたら、多くの人はそれを実行できなかったか、非常な苦痛を味わうことになっていたでしょう。

１２ 斎戒を、全ての器官と共に行ないましょう。全ての細胞で、全ての感覚で、実感しましょう。アッラーが私たちの斎戒を承認してくださいますように。